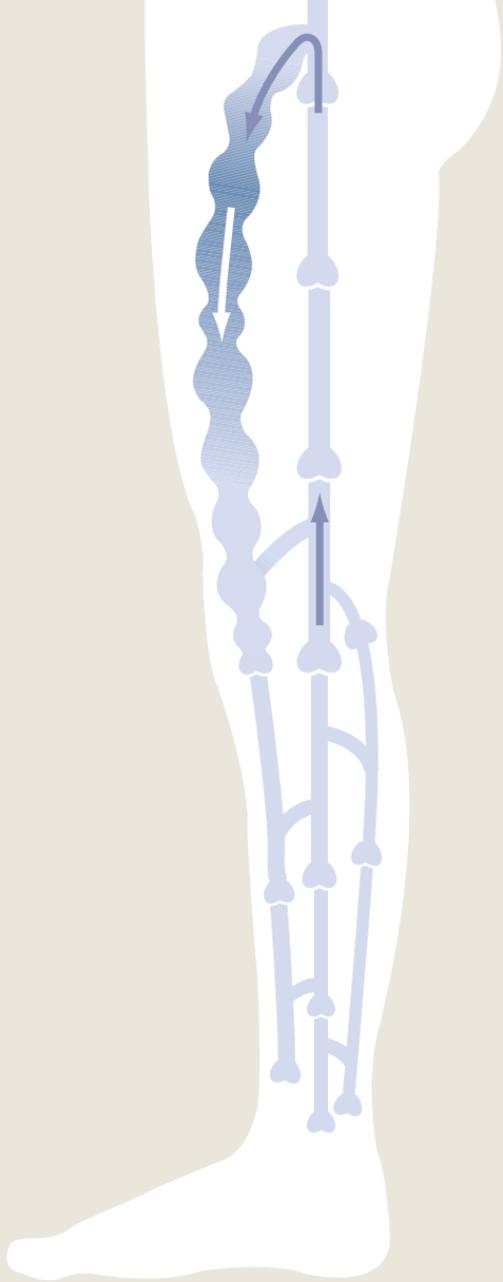


静脈瘤のはなし



監修
横浜南共済病院
心臓血管外科
孟 真

BSNmedical

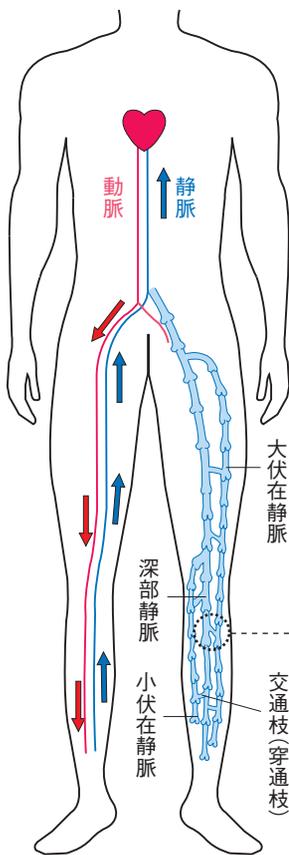
静脈瘤とは、どういう病気ですか？

血液は心臓から動脈を伝って脚のすみずみまで流れ、皮膚や筋肉などを通して静脈へ行きます。心臓への帰り道である静脈の中の血液は、重力に逆らって心臓へ、すなわち下から上へ昇らなければなりません。

そのために大切な役割を果たすのが静脈の弁とふくらはぎの筋肉です。脚の静脈には多くの弁があり血液の逆流を防ぐことで常に血液を心臓に向かって流しています。さらに、ふくらはぎの筋肉が収縮するたびに脚の静脈は圧迫され、弁と協調しながら血液を心臓まで運んでいきます。

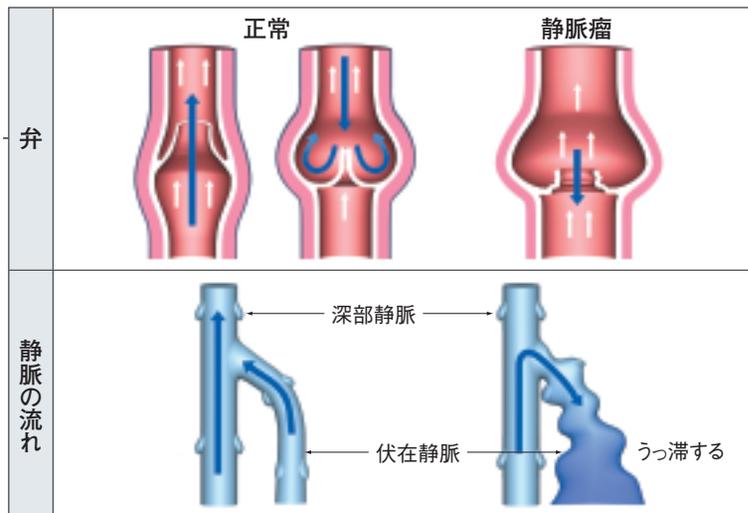
この弁がきちんと閉じなくなり、血液が逆流してしまうのが下肢静脈瘤です。

うっ血が起こり脚の血液循環が悪くなることで、さらに静脈に血液がたまり血管が徐々に太くなっていきます。はじめのうちは静脈が拡張や蛇行するだけですが、さらにひどくなると脚がむくむ、重くなる、疲れやすくなる、さらに進行すると脚が痛くなる、つりやすくなるなどの症状が出てきます。



脚の静脈の構造

ひとくちに静脈瘤といってもさまざまです。



伏在静脈瘤



側枝静脈瘤



網目状静脈瘤

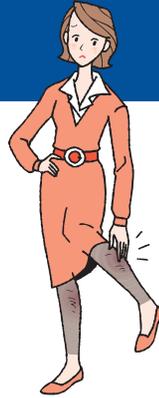


くも状静脈瘤

*網目状、くも状静脈瘤は美容上のみの問題となるだけの場合も多く、必ずしも重症化するわけではありません。

治療しないでそのままにしておくと どうなりますか？

はじめは、静脈瘤だけで無症状ですが、
進行すると痛み、だるさがでてきます。
このような状態が長く続くといずれ皮膚炎がおき、
さらには治りにくい潰瘍になってしまうことがあります。



皮膚炎



潰瘍



血栓性静脈炎

静脈瘤の中でうっ滞が続くと血液が血管
の中で急に固まってしまうことがあります。
これは血栓性静脈炎といい、静脈瘤が急
に腫れ上がって痛くなります。

日常生活の注意点

**症状のある方は症状を軽くするために以下のことに
気をつけ、なるべく脚のうっ血が起こらないように心がけてください。**

**長時間じっと立ったり、
座りつづけることは避けましょう。**

脚がだるくなったら短時間でも横になり、脚を心臓より高く
できれば理想的です。

弾性ストッキングを着用しましょう。

弾性ストッキングは足首部の圧迫力を最大に脚
のつけ根に向かって弱くなっています。
脚に合ったストッキングを毎日きちんとはきつづ
けることが大切です。医師や看護師の指示に
従ってあなたに合ったストッキングを選びましょう。

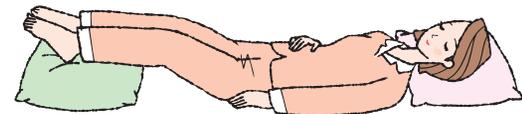
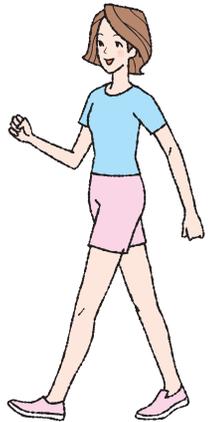
寝る時は脚を高くして寝ましょう。

脚を清潔に保ちましょう。

静脈瘤があると皮膚の循環が悪く、皮膚炎などを起こしやすくなります。
ストッキングも洗い替え用として2組以上持っているとう便利です。

適度の運動をするようにしましょう。

太りすぎに注意しましょう。



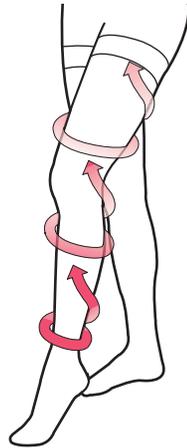
どんな治療法があるのでしょうか？

「圧迫療法」「硬化療法」 「手術療法（ストリッピング術・高位結紮術）」 があります。

静脈瘤は急に命に関わることは稀ですが、不快な症状があり、徐々に進行してゆくので生活に不自由をきたす病気です。あまり悪くないうちに専門医の診察を受けた方がよいでしょう。静脈瘤の治療には圧迫療法、硬化療法、手術療法があります。それぞれの治療には利点と欠点があるので、症状、静脈瘤の程度、かたちによって使い分けます。一般に軽症例は圧迫療法、硬化療法で治療し、重くなると手術療法が選ばれています。

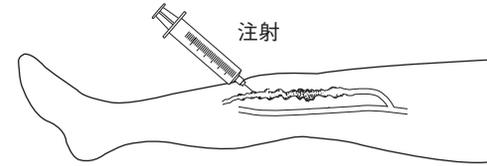
圧迫療法

弾性ストッキングや弾性包帯で脚を圧迫して静脈のうっ血や逆流を防ぎ血流を促進する治療法です。ストッキングは足首を強く圧迫して、付け根の方を弱く圧迫するようにできています。圧迫するだけで脚のだるさ・重さ・痛みはとれ、皮膚の症状も軽くなる安全で簡単な方法ですが、効果が弾性ストッキングをはいている間だけで持続性がなく、また圧迫感があるのが欠点です。妊娠中の静脈瘤や重い合併症を持った患者さんの場合は圧迫療法のみで治療します。圧迫療法は硬化療法や手術療法を行うときも術後に必ず一緒に行い治療効果を高める基本となる治療法です。



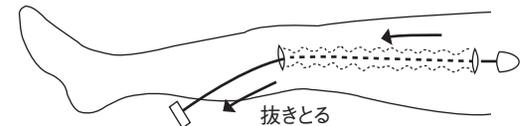
弾性ストッキングは、足首を最大圧に、付け根に向かって徐々に弱く圧迫するようにできています。

硬化療法



静脈瘤内に硬化剤という薬を注射し、さらに静脈瘤を圧迫して癒着・硬化させ静脈瘤を消失させてしまう方法です。小さな静脈瘤は硬化剤のみで治療できますが、大きめの静脈瘤の場合は、硬化剤のみの治療は無理で局所麻酔で静脈を縛る結紮手術をしてから硬化療法を行うのが確実です。

手術療法（ストリッピング術・高位結紮術）



ストリッピング手術は小さな皮膚切開から拡張したり瘤化した静脈を抜き取る手術です。悪い静脈を切除してしまうので再発率が低く、重症例でも治療成績が安定しています。外科の手術としては軽く危険の少ない手術ですが、やはり入院したり、全身麻酔や下半身麻酔が必要な場合があります。しかし最近では手術の傷跡を小さくした美的に優れた方法や、悪い部分を超音波検査で正確に探し出して悪い部分のみを切除して手術の範囲を小さくする方法、局所麻酔との組み合わせで麻酔を軽くしたりする工夫が行われ、程度によっては日帰りや1泊でストリッピング手術を行うことができます。

高位結紮手術はストリッピング手術の縮小手術で悪い静脈を抜きとるのではなく、逆流しないように静脈を縛ってしまう手術です。局所麻酔ででき、ストリッピング手術より軽い手術ですが、静脈瘤が残った場合は、硬化療法の併用が必要なこと、何年もたつと再発率がストリッピング手術より高いことが欠点です。

手術法の使い分けは患者さんの希望や病状、年齢により異なりますので医師に相談してください。



静脈瘤は、どんな人がなりやすい のですか？

立ち仕事をしている人や妊娠している人に多いです。

静脈瘤のはっきりした原因はまだわかりませんが、
次のような人に多いようです。

- 30歳以上の出産経験のある人
- 長時間の立ち仕事に従事している人
(男女を問わず調理師、理容師、教師など)
- 血縁に静脈瘤がある人
- 妊娠中の人

ホルモンの影響や大きくなった子宮が静脈を圧迫するので静脈瘤が
できたり、悪くなったりします。多くの場合出産後によくなりますが、
妊娠を繰り返すたびに治りにくくなり、症状もだんだん重くなります。

肺塞栓症(いわゆるエコノミークラス症候群)について

肺塞栓症は、肺の血管がつまってしまう、命にかかわる病気です。
静脈瘤があると、肺塞栓症になる危険は高くなりますが、すべての患者さんが
すぐになってしまうわけではありません。
しかし、飛行機に乗るなど、長時間動けないような時は、弾性ストッキングを
着用しておいたほうが安全です。



テルモ株式会社

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 2-44-1 <http://www.terumo.co.jp/>

©、TERUMOはテルモ株式会社の商標です。

©テルモ株式会社 2009年9月

09T267-2SS30SZ1007